

# 2

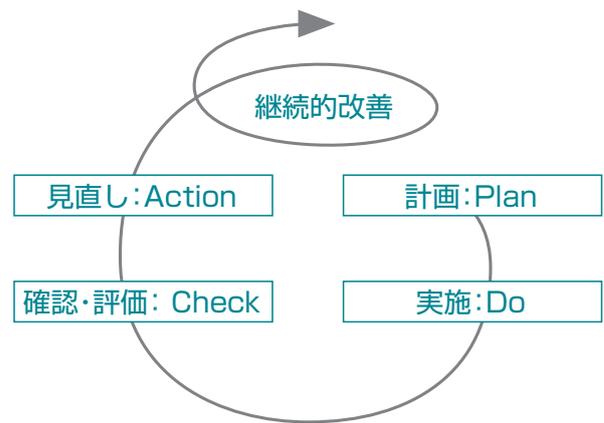
---

## 環境配慮の進め方

## 2-1 PDCAサイクル

環境に配慮した取組で成果をあげるには、取組を効率的、効果的に実施するための仕組み（システム）が必要です。

その一つとして、目標を達成し、継続的な改善をしていく『PDCAサイクル』があります。自らの事業活動や製品・サービスによる環境への影響、またその可能性を把握し、環境への配慮の方針・目標や計画を立て（Plan）、その実現に向けた環境への配慮を実行し（Do）、その達成度を点検し（Check）、見直し・改善する（Action）というものです。

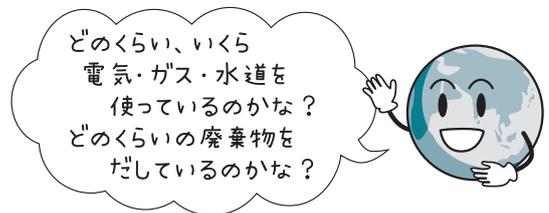


## 2-2 はじめよう ー計画 Planー

### Step 1 現状の把握をしましょう

環境への取組を行うには、まず、自らの事業活動に伴い環境への負荷がどれだけ発生しているのかを知ることが重要です。

毎月、毎年、事業所のどこでどれだけのエネルギーや原材料を使っており、自分たちの仕事が環境にどんな影響があるのか、その量はどのくらいなのかを調べ、現状を確認します。



項目	把握する内容	活用する資料・データ
エネルギー	電気、ガス、重油、水道、自動車の燃料などの使用量	納品書・請求書・伝票など
廃棄物	一般廃棄物の排出量	計量 (1個あたりごみ袋重量) × (ごみ袋個数) 
	産業廃棄物の排出量	マニフェスト伝票
グリーン調達・購入	事務用品の購入、原材料の調達	仕入先伝票・納品書・領収書

※環境負荷を把握するためのチェックシートが39～42ページにありますので、コピーして御活用ください。

※環境省エコアクション2.1ガイドライン2009年版(改訂版)別表1「環境への負荷の自己チェックシート」<http://www.env.go.jp/policy/j-hiroba/04-5.html>で温室効果ガスの算定等ができます。

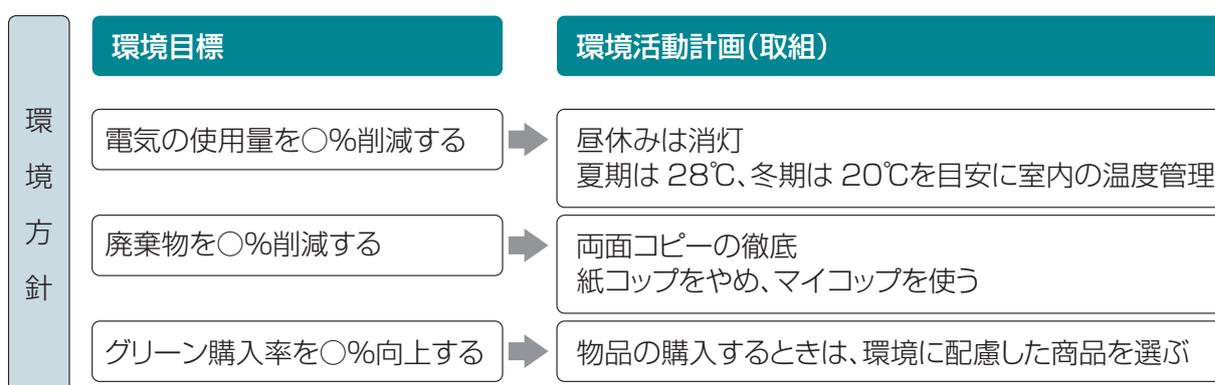
## Step2 環境方針、環境目標と環境活動計画（取組）を立てましょう

『環境方針』では、事業所において環境に配慮した取組を全従業員参加で行っていく上での基本的な方向性を決めます。たとえば、「事業活動の中で、どのように環境負荷の低減ができるのか」、「事業活動の中で、地球環境にどのように貢献できるのか」などを示します。

次に、環境方針が決まったら、『環境目標』を設定します。コストが大きなエネルギーや原材料の削減、環境への影響が大きな排出物の削減など、事業所にとって重要と判断した事項について環境目標を設定します。そして、環境目標を達成するための環境活動計画（取組）を定めます。13～30ページの取組を参考にしてください。



例

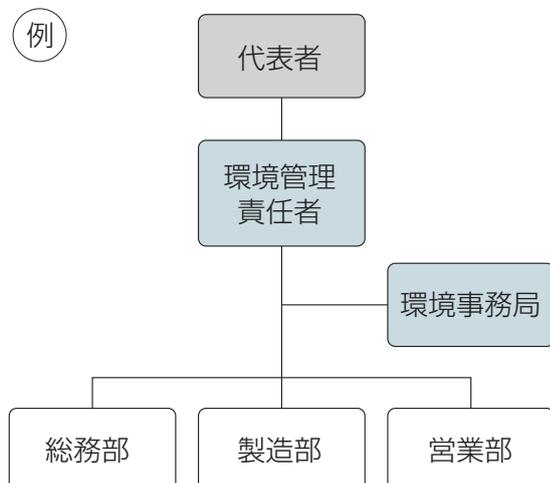


## 2-3 やってみよう ー実施 Doー

### Step3 実施体制について考えましょう

目標を達成するため、実施体制を整備します。環境活動の取組を推進するために、各人の役割と責任を明らかにして従業員全員に周知します。

例



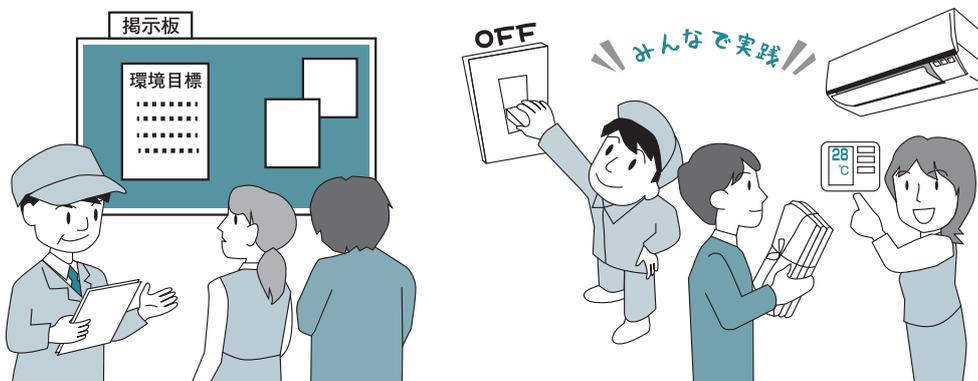
例

	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営に関する統括責任</li> <li>環境管理責任者を任命</li> <li>環境方針の策定・見直し及び全従業員への周知</li> <li>代表者による全体の評価と見直しを実施</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境マネジメントシステムの構築、実施、管理</li> <li>環境目標・環境活動計画書を確認</li> <li>環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境管理責任者の補佐</li> <li>環境負荷のチェック及び環境への取組のチェックの実施</li> <li>環境活動の実績集計</li> </ul>
部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>部門における環境方針の周知</li> <li>部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>部門に必要なルールの作成及びルールによる実施</li> <li>部門の問題点の発見、改善策の実施</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

## Step4 従業員全員で環境活動に取り組みましょう

環境方針や環境目標、環境活動（取組）について、朝礼や職場会議、掲示板などを利用し、従業員全員に周知します。

そして、目標を達成するため、ルールを作成したり決めたルールを掲示したりし、一人一人が意識できるように“見える化”を行い、従業員全員で環境活動（取組）に取り組みます。



## 2-4 点検しよう 一確認・評価 Check

### Step5 「目標の達成」「取組の実施」について評価してみましょう

エネルギーの使用量や二酸化炭素排出量等の記録（環境負荷チェックシート）を基に、「目標」が達成できたか、また「取組」が実施できたかなど確認・評価をします。確認・評価した結果は、従業員全員に周知します。



“なぜ”を  
3回  
繰り返そう!

#### 取組の実施、目標の達成ができなかったなどの問題があった場合

たとえば  
よくあるのは

なぜ「取組の実施」「目標の達成」ができなかったのか問題の原因を突き止める

〇〇が達成できなかったのは **なぜ?** ▶ 全員に取組の **周知** ができていなかった。

ここでとどまらず、  
さらに

周知ができなかったのは **なぜ?** ▶ 〇〇部門で〇〇長が **説明** していなかった。

さらに

役割が **認識** できていなかった。  
〇〇長が説明していなかったのは **なぜ?** ▶ 全員が集まる **機会** がなかった。  
説明事項が多すぎて、**見落** とした。

## Step 6 どのように改善すればよいのか考えてみましょう

取組の実施や目標の達成ができなかった原因を調査し、同じ問題が再発しない対策をとります。どのように改善すればよいかは、従業員の提案・アイデアも募集しましょう。改善策についても全員に周知し、徹底しましょう。

また、表彰制度や提案システムなどを設け、従業員自らが主体的に環境活動を考えていくことができる仕組みづくりを整えることで、一層の意識高揚につながります。

### 問題点の着眼点

- ①今のやり方にムダ・ムリがないか?
- ②なんのためにこの仕事をしているか?
- ③なぜ人に聞かないとわからないか?
- ④疲れる仕事・危険な仕事はなにか?
- ⑤二度手間・三度手間はありますか?

### 従業員のアイデア



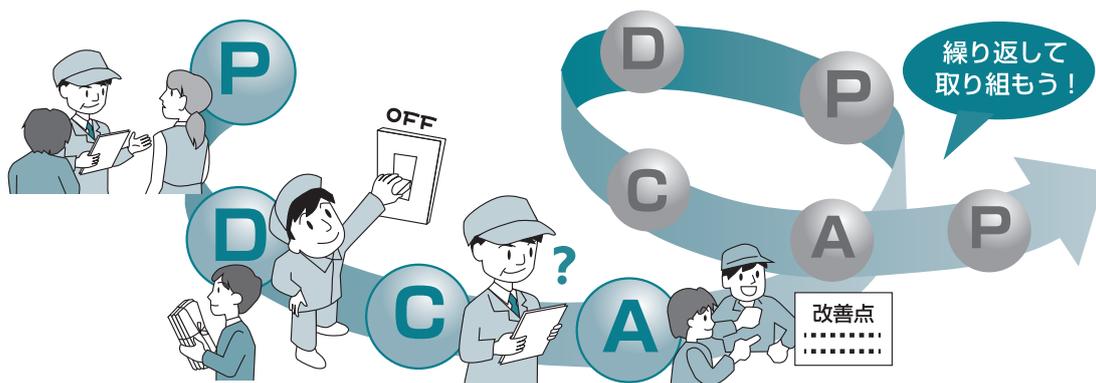
### 改善点の着眼点

- ①もっとわかりやすくできないか?
- ②もっと楽に・近くに・早くできないか?
- ③先に準備しておくことができないか?
- ④同時に、簡単にできないか?
- ⑤標準化・ルール化できないか?

## 2-5 総合的な見直しをしよう ー見直し Actionー

### Step 7 継続的に環境目標の達成・環境活動計画の実施が進むよう、総合的な評価と見直しをしてさらなる改善を進めましょう

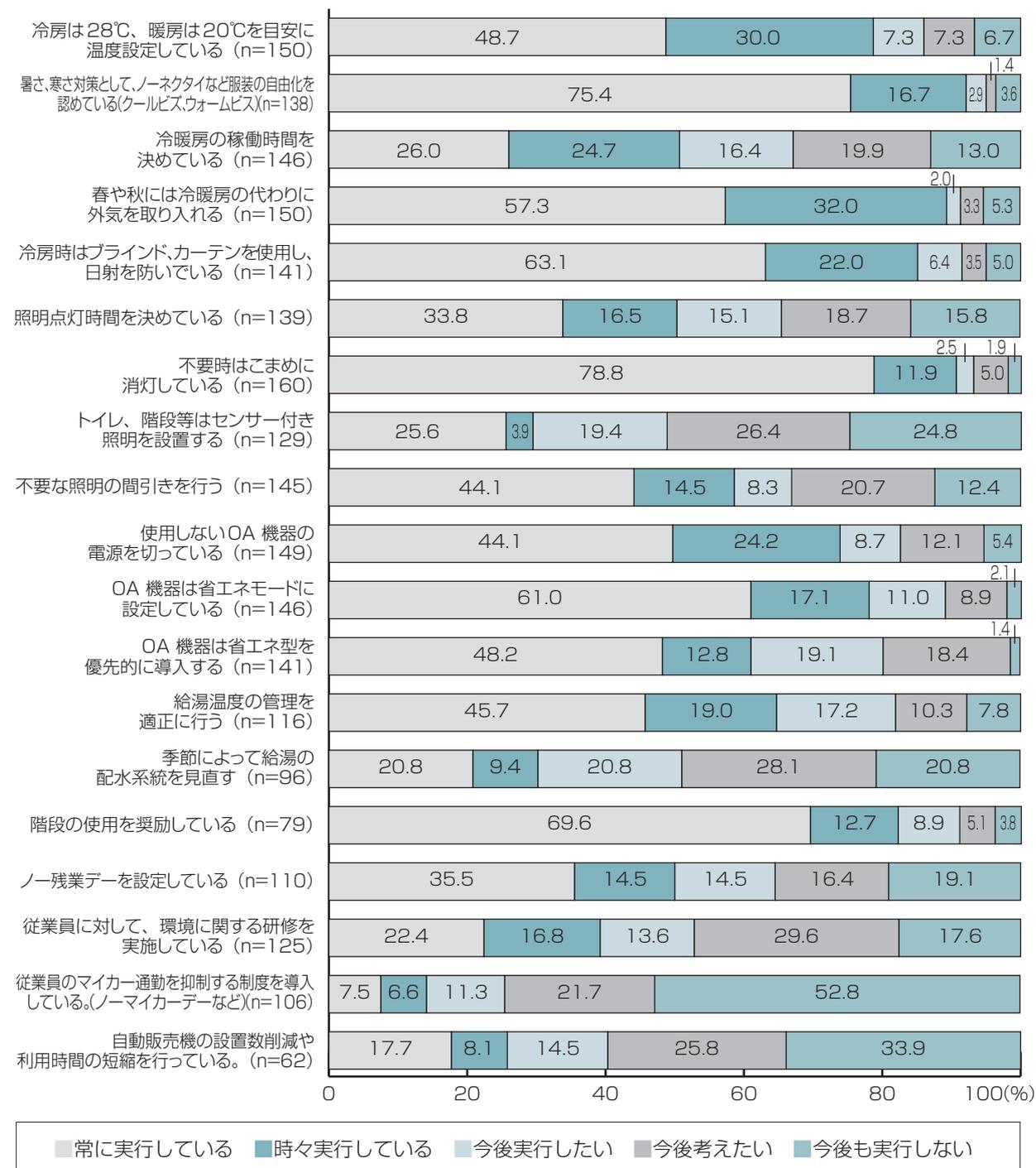
環境目標や取組の実績を評価して、次年度以降の環境目標をどのように立て、どのように取組を行うべきか検討し、改善点を明確にします。



## 地球温暖化に対する意識・省エネルギー行動についてのアンケート結果（抜粋）②

### 事業者アンケートの集計結果（抜粋）

日頃の事業活動の中で地球温暖化防止のために配慮している取組はありますか。



日頃の事業活動の中で、環境に配慮した取組は『事業者全体で容易に取り組めるもの』が多くなっています。

